

## 影の薄い男

大塚 喜子

「職場と取引先で、自分がどう思われているか、調べてほしい」我が【まほろ駅前興信所】にもこんな依頼が増えている。先ず男の話聞いた。

依頼者の大矢氏は国立大卒の某大手企業の営業部長である。自分はリストラされそうだと心配している。世間はコロナ騒動が終息して株価はグングン上値を追っているというのに何故だろう。一週間で調査を終え、報告書を用意して待っていると、約束の時間キツカリに大矢氏は現れた。

「まったく問題はありませぬ。職場や取引先で、あなたは良い人と思われています。あなたを悪く言う人は一人もいませんでした。ただ……」

「ただ……なんででしょうか？」大矢氏は身を乗り出した。

「誰もがあなたのことを影の薄い人と見ているようです。同級生は勿論のこと、職場の同僚や親戚の中にも、あなたのことを尋ねると首を傾げて、直ぐには思い出して貰えませんでした。いるのかいないのか判らないような人というのが大方のあなたの印象のようです」大矢氏はガツカリする一方で、ホツとした様子も見せて、分厚い報告書を大事そうに鞆に入れて部屋を出た。

「アッ！」私は思わず叫んだ。約束の調査費四〇万円を受け取っていないことに気がついたのだ。とんだ失態だ。慌てて飛び出して、大矢氏の後を追った。間に合った。ホールで数人がエレベータに乗り込むところだった。私も一緒に乗り込んで、乗客たちを見回して愕然とした。大矢氏がどんな顔だったかサッパリ思い出せないのだ。

「大矢さん」遠慮がちに呼びかけてみたが誰も反応しない。一階に降りると、乗客はまほろ駅の改札口に向かった。大矢氏は本当にあの中に居たのだろうか。呆然として部屋に戻ると、机の上には封筒に入った調査費四〇万円がある。大矢氏は事務所に戻ったのだろうか？職場での大矢氏の営業成績は決して悪くなかった。それでもリストラされるのが心配なのだろうか。

おわり